

国際理解教育/開発教育 学習指導 (活動) 案

【実践者】

授業者氏名	八木ゆかり	学校名	新潟県糸魚川市立能生中学校
教科(科目)・領域	国語科	対象学年(人数)	2年(56名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2023年 10月 ~ 11月(9時間)		

【実施概要】

<p>1. 単元名(活動名) :</p> <p>源氏と平家/音読を楽しもう 平家物語・扇の的 — 「平家物語」から</p> <p>[討論]異なる立場から考える・立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する (光村図書 2年)</p>					
<p>2. 実践する教科・領域 :</p> <p>国語科</p>	<p>3. 学習領域</p>				
		1	2	3	4
	A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	Bグローバル社会	相互依存	情報化		
	C地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
<p>4. 単元の目標(評価規準を意識して設定) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむ。 ・登場人物の言動の意味を考え、そこに表れたものの見方や考え方を捉える。 ・立場を明確にして、適切な根拠とともに意見を述べる。 ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、対話とコミュニケーション力を育てる。(国際理解教育の視点) 					
<p>5. 単元の 評価規準</p>	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(学習指導要領(2)ア、以下同じ) ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) 			
	②思考力、判断力、表現力等	<p>「話すこと・聞くこと」において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) <p>「読むこと」において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。(C(1)イ) 			
	③学びに向かう力	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで登場人物の言動の意味について考え、互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。 			

6. 単元設定の理由・単元の意義

(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由あるいは単元の意義】

古典を学ぶことは、日本の伝統的な言語文化に親しむだけでなく、古典に表れたものの見方や考え方を知ることでもある。さらには、古典を通して時代の潮流を俯瞰することで、今を生きるヒントを得るものでもある。そこで、登場人物の言動の意味を考え、そこに表れたものの見方や考え方から現代とは異なる価値観や現代と共通する価値観に気付かせる古典に、国際理解教育の視点から価値観が多様化する現代をよりよく生きるために必要となる「伝え合う力」(相手に伝えたいことを言葉にするコミュニケーション能力、互いの立場や考えを尊重し言葉で伝え合う対話力)を身に付けさせることをねらいとした言語活動を関連させて、本単元を設定した。

古典では、学習指導要領にある第2学年の内容のうち、「知識及び技能」の「(3)我が国の言語文化に関する事項」の「ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」及び「イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。」、「思考力、判断力、表現力等」の「C 読むこと」の「イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること」を目標とした。

言語活動では、「知識及び技能」の「(2)情報の扱い方に関する事項」の「ア意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。」、「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」の「(1)ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。」及び「(1)オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。」を目標とした。

【児童/生徒観】

古文特有の仮名遣いや古語などにつまづき、古典を教材とした授業に苦手意識をもつ生徒は少なくない。原文を現代語訳することに重点を置くとあらすじを捉えることに終始してしまう恐れがあるので、現代語訳や映像教材を活用し、作品に描かれている登場人物のものの見方や考え方を捉えさせたい。

生徒は意見を交流する経験を積んできており、自分の考えを伝え、他者の考えを聞くことでものの見方や考え方の多様性を受け入れることができている。しかし、その多様性を問い直し、意味づけ、共有することで個々の考えを深める対話的な活動になっているとは言い難く、「いろいろなものの見方や考え方があった」という理解にとどまっている。そこで、本単元では登場人物たちのものの見方や考え方の違いを可視化し、意味を問い直すことで、同じ事象であっても捉え方が異なることを理解した上で、複数のものの見方や考え方を状況に応じて使い分けたり、よりよいものを作り出したりしながら柔軟に考えを形成していく力を言語活動を通して身に付けさせ、国際理解に通じる力を育てたい。

【教材観】

鎌倉時代前期に成立した「平家物語」は、平家一門の興亡のありさまを語った軍記物語である。漢語を巧みに交えた和漢混合文で書かれた文章には独特の調子とリズムがあり、既習の「竹取物語」や「枕草子」といった平安文学とは異なる魅力を味わうことができる。また、琵琶法師の語る「平曲」という芸能として武士や庶民に広く語り継がれてきた作品であることから、音読を通して古文特有のリズムを体感するのに適している。

本単元で扱う「扇の的」は、源氏と平家が対峙する緊迫した場面であり、勇猛な東国武士である源氏と宮廷社会で貴族化した平家という対照的な二者を印象づける場面である。源氏の武士としての誇りを一身に任され矢を放つ那須与一、射ることを命じた源義経、固唾をのんで見守る源氏方と平家方の武将たち、といった異なる立場の人々が登場する場面でもあり、「扇の的」という1つの出来事をどのように捉えているか、言動の意味を考えることで価値観や心情を読み取り、登場人物のものの見方や考え方を捉えるのに適している。さらに、義経の命令で与一が平家の男を射倒したことについては、「あ、射たり。」と称賛する者と「情けなし。」と非難する者とに分かれており、異なる立場の人の考えを予想しながら考えをまとめて討論するテーマとしても適した教材であると言える。

【指導観】

漢語を巧みに交えた和漢混合文で書かれた文章には独特の調子とリズムがあり、音読を通してその特徴に気付かせたい。特に、冒頭部分は古典への興味・関心を高める手立てとして、暗唱を目標として音読の機会を多くとり、七五調のリズムを体感させる。さらに、繰り返し音読することで、物語を包括する「無常観」についての理解を促し、朗読に生かせるようにする。

	<p>原文を現代語訳することを目的とするのではなく、現代語訳や映像教材を手掛かりに作品を読むことを通して、そこに描かれている情景や登場人物の言動の意味、心情などを想像できるようにしていく。また、作品中に多く用いられている対句表現に着目させることで、登場人物の言動の意味を対比して考えられるようにしたい。</p> <p>「扇の的」の場面では、那須与一、源義経、源氏方と平家方の武将たちといった異なる立場の人々の言動を取り出し、それぞれのものの見方や考え方をKJ法を用いて可視化する。さらに、共感できるものと共感できないものとに分けることで、現代とは異なる価値観や現代と共通する価値観に気付かせ、新たな発見や興味・関心をさらに高める契機としたい。</p> <p>なお、生徒は1学年時に社会科の歴史的分野で中世の日本について学習を終えているが、登場人物のものの見方や考え方を知るためには歴史的事実だけでなく、「平家物語」というフィクションを支えるキャラクター等の設定を知る必要があり、これについては「弓流し」や「敦盛の最期」といった別のエピソードを読むことで補足していく。</p>		
7. 単元計画 (全 9 時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	<p>【冒頭部分】 作品の特徴を生かして朗読し、作品に興味を持つ。</p>	<p>1 「源氏と平家」の資料を読み、物語の主要な人物や主な戦いについて知る。 2 作品の概要と文章の特徴を知る。 3 独特の調子とリズム、言葉の響きを音読で味わう。 4 現代語訳を読み、物語を貫く「無常観」のイメージをもつ。 5 作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読する。 ◇冒頭部分の暗唱を目標として、帯活動として音読を行う。 ◇毎時間の学習内容はA3の紙に記録し、一覧で振り返ることができるようにする。</p>	<p>・NHK for School 「平氏と源氏」 ・文化デジタルライブラリー「平曲」 ・朗読音声(教科書二次元コード) ・PowerPoint (以下、PPT)【資料①】 学習内容の記録A3 (イメージ)</p>
2	<p>【扇の的】 音読を楽しみ、あらすじを捉える。</p>	<p>1 場面の背景と現代語訳を読み、内容を把握する。 2 音読することで、対句表現や擬声語に着目する。 3 Google フォームの問いに回答する。 4 初読感想を書く。 5 各自で場面を4つに分け、各場面の内容を一文にまとめる。 (例) ①前話：海へ敗走した平家が陸から追う源氏に対して、波に揺られる扇の的を射るように挑発する。 ②展開： 与一が神仏に願いをかけると、風が少し弱まった。 ③クライマックス：義経に命令された与一が見事に射落とす。 ④後話：与一は、自分の腕前を褒めたたえて舞を舞う平家の男を、義経の命令で射倒す。 ◇Google フォームでは平家の男が射倒された場面で、与一・義経・源氏は非情だと思いかを問う。読み進めていくことで生じる解釈の変化を明らかにするため、第8時の討論前後にも同じ問いについて回答させる。</p>	<p>・朗読音声(教科書二次元コード) ・「源平合戦図屏風」(教科書資料) ・「武具と馬具」(教科書資料) ・全文プリント ・Google フォーム ・PPT【資料①】 学習内容の記録A3 (イメージ)</p>

3	<p>【扇の的】 登場人物を人物相関図でまとめる。</p>	<p>1 教科書では省略されている場面の背景を詳しく読み、内容を把握する。 ・源氏は平家の挑発は、義経をおびき出し、狙撃するためのものだと考えていた。 ・与一が辞退したことに、義経は激怒した。</p> <p>2 登場人物の名前、状況や立場、他の登場人物との関係などを各自で人物相関図にまとめる。</p> <p>3 登場人物に対する印象や言動に対する疑問などグループで意見交換する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for School 「歴史にドキリ 源義経～源平の戦い～」 ・角川書店「ビギナーズ・クラシックス 平家物語」 ・全文プリント ・PPT【資料①】学習内容の記録A3 (イメージ) ・PPT【資料②】人物相関図 (イメージ)
4	<p>【扇の的】 登場人物の言動から心情を捉える。</p>	<p>1 各自で全文プリント内から与一、義経、源氏方と平家方の武将たちの言動を探し線を引き、その心情を考え付箋に書く。(源氏：青、平家：赤、両軍：黄)</p> <p>2 K J法を用いてグループで情報を整理する。</p> <p>3 付箋に書かれた心情のうち、共感できるものに各自が印(シールに名前を書いたもの)をつける。</p> <p>4 源氏と平家ではものの見方や考え方にどのような違いがあるか、共感できるものとできないものに注目して気づいたことをグループで話し合う。</p> <p>(例) 源氏：常に戦闘態勢であり、勝つためには手段を選ばない非情さがある。 平家：扇の的にしたり、敵を称賛して舞を舞ったり、戦場であっても優雅さがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間を応援する気持ちは共感できる。 ・失敗したら死をもって償うという感覚には共感できない。 <p>◇ホワイトボードは引き継いでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全文プリント ・ホワイトボード ・付箋 ・シール ・PPT【資料③】全文プリント(イメージ) ・PPT【資料④】K J法 (イメージ)
5	<p>【扇の的】【弓流し】 登場人物の言動から心情を捉える。</p>	<p>1 「扇の的」の場面を中院本と比較して読む。 ・中院本では、平家の男が舞った場面と与一の腕前を称賛するのではなく、水を差す行為として描かれている点に着目する。</p> <p>2 「弓流し」の場面の背景と現代語訳を読み、内容を把握する。</p> <p>3 年五十ばかりなる男や義経の言動からその心情を考え付箋に書く。</p> <p>4 前時のK J法に加えてグループで情報を整理する。</p> <p>5 付箋に書かれた心情のうち、共感できるものに各自が印をつける。</p> <p>6 源氏と平家ではものの見方や考え方にどのような違いがあるか、共感できるものとできないものに注目して気づいたことを再度グループで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読音声(教科書二次元コード) ・ホワイトボード ・付箋 ・シール ・PPT【資料④】K J法 (イメージ) ・PPT【資料⑤】覚一本と中院本の比較

		<p>(例)</p> <p>源氏：源氏のプライドが命より大事。 平家：源氏を見下している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見下されたら嫌な気持ちになるのは共感できる。 ・命よりプライドが大事という考えには共感できない。 	
6	【敦盛の最期】 登場人物の言動から心情を捉える。	<ol style="list-style-type: none"> 1 「敦盛の最期」の場面の背景と現代語訳を読み、内容を把握する。 2 敦盛、熊谷直実や義経の言動からその心情を考え付箋に書く。 3 前時のK J法に加えてグループで情報を整理する。 4 付箋に書かれた心情のうち、共感できるものに各自が印をつける。 5 源氏と平家ではものの見方や考え方にどのような違いがあるか、共感できるものとできないものに注目して気づいたことを再度グループで話し合う。 <p>(例)</p> <p>源氏：戦場における優雅さを理解しているが、勝つことを優先している。命を奪うことに葛藤がある。 平家：戦場でも優雅さ(笛)を忘れない。敵に見逃してもらおうなど、生き恥をさらすようなことはできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が子と同じ年頃の敦盛を助けたいと思う気持ちは共感できる。 ・潔く死ぬことをよしとする考えには共感できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for School 「おはなしのくににクラシック平家物語」 ・ホワイトボード ・付箋 ・シール ・PPT【資料④】K J法(イメージ)
7	異なる立場から考える。	<p>《問い》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与一は「情けなし」(非情)か？ ・義経は「情けなし」(非情)か？ ・源氏は「情けなし」(非情)か？ <ol style="list-style-type: none"> 1 3つの問いに対し、前時のK J法で整理した情報を根拠に賛成・反対の立場を想定して意見を考え、付箋に書く。(賛成：緑、反対：黄) 2 付箋に書いた賛成・反対という異なる立場の考えに対して、さらに反論を考え、付箋に赤字で書く。 3 Google フォームの問いに回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・付箋 ・ワークシート① ・Google フォーム ・PPT【資料⑥】ワークシート①(イメージ)
8 本時	討論で多角的に検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・討論はディベートの形式をとるが、各自が納得できる結論を引き出すことを目的としているため、勝敗の判定は行わない。 ・生活班(5人)を1グループとし、グループの立場は教師が指示する。したがって、グループの立場と自分の考えとは必ずしも一致しない。 ・テーマは「与一は非情か?」「義経は非情か?」のいずれかとする。 <ol style="list-style-type: none"> 1 司会、賛成、反対の3グループを2つ作り、討論する。 2 討論を振り返り、Google フォームの問いに回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート②(全員) ・ワークシート③(進行役2名) ・ワークシート④(司会2班) ・ワークシート⑤(賛成反対4班) ・Google フォーム ・PPT【資料⑦】討論の進め方

		◇賛成・反対の意見に偏りが生じた場合は生活班をグループとして、立場を教師が指示するが、前時の Google フォームの回答状況から偏りが無い場合は、5人を基本としたグループを編成し、生徒の考えとグループの立場を一致させてもよい。	
9	読み取ったことを基に自分の考えを述べる。	<ol style="list-style-type: none"> 前時の討論を振り返り、改めてテーマについて考えをまとめる。 討論を通して学んだことや気づいたことを次の観点でまとめ、グループで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えはどのように変化したか 討論の意義（よい点） 討論で大切なこと 読後感想を書く。 読後感想をグループで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボード PPT【資料①】学習内容の記録A3（イメージ）

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：人の立場や考えを尊重しながら、討論で「義経／与一は非情か？」というテーマに対し、多角的に検討する。

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）	
事前準備	<p>○前時の Google フォームの回答状況から</p> <p>【A】 賛成と反対に偏りがある場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活班（5人）を1グループとし、グループの立場は教師が指示する。したがって、グループの立場と自分の考えとは必ずしも一致しない。 テーマとグループの立場（賛成・反対・司会）はくじ引きで決める。 <p>【B】 賛成と反対に偏りが無い場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 5人を基本としたグループを編成し、生徒の考えとグループの立場を一致させる。 テーマは教師が指示する。 <p>○会場を準備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 可能であれば多目的室など広いスペースに会場準備をし、展開時に会場へ移動する。 		
導入 (5分)	○PPT 資料を用いて、討論の進行や時間配分、役割について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 時間短縮のために詳しい説明はワークシートや Google Classroom に書いておく。 	<ul style="list-style-type: none"> PPT【資料⑦-1~5】討論の進め方 ワークシート② 	
展開 (35分)	○同じ立場同士で役割分担や発表内容等を最終確認する。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> モニターに表示させた PPT 資料に沿って進めていく。 討論の目的が勝敗を決めることではなく、それぞれの立場を意識して、多角的に意見を出し合い、一定の結論を導くことであることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> PPT【資料⑦-6~19】討論の進め方 ワークシート① ワークシート③ ワークシート④ ワークシート⑤ 	
	○次の流れで討論する。(30分)			
	開会 1分			テーマと討論の流れを確認する
	立論 3分			【賛成側】の立場から考えを発表する
	3分	【反対側】の立場から考えを発表する		
	3分	作戦タイム① 相手の意見に対し、どんな質問をするか検討する		

	質疑 応答	4分	【賛成側】から質問する	・討論が行き詰った場合には、教師が進行役に助言する。	
		4分	【反対側】から質問する		
	反論	1分	【反対側】から反論する		
		1分	【賛成側】から反論する		
		3分	作戦タイム② ・相手の意見に共感する部分があったか考える ・自分たちの立場を支える新たな見方や考え方はないか考える		
	結論	1分	【反対側】から相手の考えもふまえて、自分たちの考えをまとめる		
		1分	【賛成側】から相手の考えもふまえて、自分たちの考えをまとめる		
	司会 まとめ	4分	中立な立場で討論の内容をまとめる		
閉会	1分	進行役が感想を述べる			
まとめ (5分)	・討論を振り返り、Google フォームの問いに回答する。		・生徒のまとめの発言の中から、考えの変化や考えが広がったり深まったりしたことを取り上げ、討論の意義を確認する。	・Google フォーム	

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

①知識及び技能

- ・古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。（朗読の取組の様子）
- ・与一や義経の言動、扇の的を射落とす後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。（学習内容の記録）
- ・説得力のある根拠と共に、意見をまとめている。（学習内容の記録）

②思考力、判断力、表現力等

- ・「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。（学習内容の記録）
- ・異なる立場の人の考えを予想しながら考えをまとめている。（学習内容の記録）
- ・互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて話している。（グループ内の意見交換、討論の様子）

③学びに向かう力

- ・進んで登場人物の言動の意味について考え、互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。（グループ内の意見交換、討論の様子）
- ・話し合い（討論）の意義や行う際に大切なことについて考え、国際社会で求められる態度・能力を身に付けようとしている。（グループ内の意見交換、学習内容の記録）

<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は意見を交流する経験を積んできているが、その多様性を問い直し、意味づけ、共有することで個々の考えを深める対話的な活動になっているとは言い難い。そこで、「平家物語」の単元に「[討論]異なる立場から考える」「立場を尊重して話し合おう」といった単元を盛り込むことで、「いろいろなもの見方や考え方があった」という理解にとどまっていた活動を、「話し合うことで自分の考えの変化や考えが広がったり深まったりした」という実感が得られる活動を目指した。 ・本実践の対象生徒の中には、糸魚川市が実施している広島派遣研修に参加した者がいる。彼らは研修報告の中で「日本は被害者でもあり、加害者でもある。」という新たな気づきを得たと研修を振り返っており、本実践の「異なる立場から考える」「討論で多角的に検討する」という学習活動の意義とつなげたいと考えた。
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>(1) 学校内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修において、実践報告を行う。 <p>(2) 学校外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県教育支援システム「TeaRoom」に投稿する。 ・来年度、上越教育大学「教育実践研究」に応募する。

【自己評価】

<p>12. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の特徴を生かした朗読 単元の目標の1つを「作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむ。」としたが、朗読の時間を十分に確保することができなかった。参考資料として、文化デジタルライブラリーの「平曲」や能楽師による朗読を視聴したが、冒頭部分に表れている「無常観」をどのように朗読に生かすか考えさせるには至らなかった。毎時間、授業開始後5分間を帯活動として冒頭部分の暗唱に取り組んだが、既に小学校で暗唱に取り組んできた生徒が多かったため、その時間に暗唱ではなく学習内容の記録を行う生徒が多かった。帯活動の目標を「冒頭部分の暗唱」ではなく、「作品の特徴を生かして朗読する」と設定し、単元を通じて生徒に取り組ませることで単元の目標により近づけたのではないかと思われる。 ・ 学習内容を記録する時間の確保 一覧で振り返ることができるように、生徒は毎時間の学習内容をA3の紙に記録していくのだが、その時間を確保することができなかった。そのため、多くの生徒は家庭学習や帯活動の時間に自主的に記録をすすめていた。時間確保のため、予定していた資料映像の視聴を見送るなどの対応を行ったが、それでも十分な時間確保には至らなかった。
<p>13. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動の見直し ① 音読教材 今回、古典の世界に親しむことを目標として、冒頭部分と「扇的」に音読を取り入れたが、時間の確保が困難であったことから、これを見直す。音読は冒頭部分のみとし、「扇的」や「弓流し」の場面は朗読を聞き、あえて音読の機会は設けない。音読教材を絞ることで、冒頭部分の音読は「作品の特徴を生かして朗読する」を目標に帯活動として取り組み、単元の最後にグループ発表の機会を設けるなどより充実したものを指す。

②K J法の進め方

登場人物の言動からその心情を付箋に書いて可視化する活動を設けた。その際、共感できるものに各自が印をつける予定であったが、生徒が本文から登場人物の心情を読み取ることに集中している様子から今回はこれを見送った。しかし、現代とは異なる価値観や現代と共通する価値観に気付かせ、新たな発見や興味・関心をさらに高める契機とするためにも、共感できるものと共感できないものとに分ける活動は必要である。そこで、単元計画の第7時「異なる立場から考える。」の中で行うこととする。第7時は、K J法で整理した情報を根拠に「非情か」という問いに対し、賛成・反対の立場を想定して意見を考えることが主な活動である。この活動に入る前に、K J法で整理された情報をグループで見返しながら「共感できるもの・共感できないもの」をテーマに意見交換する時間を設けることで、より多角的な討論につながるのではないかと期待する。

③討論の準備

【図①】は討論の様子を記録した司会グループ生徒のワークシートである。質疑応答の場面で、反対側が舞を舞ったのは煽り行為だったという反対側の意見に対し、賛成側はその根拠を質問したが、得られた回答は「そう感じたから」と主観的なものだったことが分かる。(a) また、賛成側の義経は自己中心的であるという意見に対し、反対側が具体的な理由を求めていることも分かる。(b) いずれも手元の資料の中から根拠を探す余裕がなく、根拠を示すことができないまま討論は進んでしまった。(a)の根拠は第5時に示した中院本の記述であり、(b)の根拠は第3時に示した教科書では省略されている場面の記述であることは、討論の準備を進める様子から明らかであった。討論の進行は分刻みであり、限られた時間の中で慌てることなく根拠を示すために討論の準備を行う第7時を見直す必要があると感じた。そこで、K J法で整理した情報を根拠に賛成・反対の立場を想定して意見を付箋に書く際に、根拠とした付箋をワークシート①に貼るだけでなく、教科書のページ番号や資料番号をメモしておくように指示する。【図②】

結論	反論	質疑応答	立つん立論	司会まどめの手引き ※討論の内容をメモして、最後にまどめを述べよう。
<p>義経は身方に罪をなすりつける 自分の殺す必要はない 舞を舞ったのは煽り行為 敵を殺すのは普通のこと おかし</p>	<p>なんで自分が命を殺さないのか。 是非はわかない、そう決まってる 時代だからしょうがない。</p>	<p>どうせ殺すから船の上で殺さば 戦いに戦い殺すから今殺さば くそ</p>	<p>あつていも殺すのはあかし 自分殺せばいいのはあかし</p>	<p>賛成側 義経は非情 反対側 非情ではない 敵を殺すのは普通のこと、おかし</p>
<p>(a) 義経は自分から殺す必要はない 自分の殺す必要はない 舞を舞ったのは煽り行為 敵を殺すのは普通のこと おかし</p>	<p>(b) 義経は自分から殺す必要はない 自分の殺す必要はない 舞を舞ったのは煽り行為 敵を殺すのは普通のこと おかし</p>	<p>どうせ殺すから船の上で殺さば 戦いに戦い殺すから今殺さば くそ</p>	<p>あつていも殺すのはあかし 自分殺せばいいのはあかし</p>	<p>賛成側 義経は非情 反対側 非情ではない 敵を殺すのは普通のこと、おかし</p>

【図①】討論の様子を記録した司会グループ生徒のワークシート

また、根拠として用いる教科書や資料の写真をタブレットに保存しておき、討論の際に相手に示すという方法を示唆することも有効であろう。

【資料5】ワークシート①(イメージ)

源氏方	義経	与一	
<p>[反論] 直実は教盛と同じ年頃の息子がいたために助けたいと思った。つまり、離れた状況である。直実が味方の人々に無残に殺されるくらいならと考えていることから、源氏方は非情だと思ふ。</p> <p>「あ、射たり」と与一を称賛し、源氏の強さを見せつけてやったぞと興奮している人たちがいるから。</p>	<p>教科書P156</p> <p>[弓流し] 命よりも源氏の大將としてのプライドが大事</p> <p>[弓流し] のエピソードから強さを見せつけたい気持ちを読み取れるので、立派な武將の言によるチャンスを見逃すことはしないと思ふ。</p> <p>[反論] 教盛に対しては涙した源氏ごときが息子に襲って…私のごときも射ることが出来るか?と推察してきた男に対しては憤り容赦なかったと思ふ。</p>	<p>[反論] 非情な主君の命令にも忠実に従う。冷たさを感じる。弱さを射るときは折るなど人間らしい弱さを感じたが、的を射抜いたことで自信をつけ冷酷非情な雰囲気を出し始めたと思ふ。</p> <p>今度はずいぶん、中差を取っている。義経の命令ではあったけど、与一もさうに手柄を立てようという気持ちがあったと思ふ。</p>	賛成(非情だ)
<p>「教盛の最期」のエピソードで、我が子と同じ年頃の教盛を助けたいと思った直実のような武將もいるから。</p> <p>[反論] 義経の手前、喜ぶのは当たり前だと思ふ。本心から喜んでいたりはいきれない。</p>	<p>「教盛の最期」のエピソードで笛を見て涙している。風雅を理解しているが、勝たなければいけないという源氏の大將としての責任感が男を射倒すという判断になったと思ふ。</p> <p>[教盛] 笛を見て涙、風雅を理解しているか、勝たなければいけない</p> <p>教科書P284</p> <p>[資料5] 覚一本と中院本の比較</p> <p>[反論] 中院本から与一の晴れ舞台にしゃしゃり出てきた男が許せないという気持ちが読み取れるので、勝利のためだけでなく、与一の名誉を守るために男を射倒したと思ふ。</p> <p>源氏が盛り上がっていて面白くない戦を奪って最後の座を奪ってやる</p>	<p>主君の命令は絶対で、失敗は源氏の恥となり殺される。自分の意思とは関係なく男を射倒したと思ふ。</p> <p>[反論] 失敗すれば与一が殺されるのだから、確実に射倒すために殺傷能力の高い中差を遣ふのは当然であり、手柄を立てたいという気持ちの表れではないと思ふ。</p>	

14. 成果が出た点

・「価値観」という語彙の習得

「弓流し」の場面で義経の心情を読み取る活動の中で、義経が大事にしているものは何かを生徒は考えた。「弓流し」は、戦の最中に必死で弓を拾い上げる義経の行動を老臣たちが「弓よりも命が大事」と諫めたのに対し、義経が「自分の弱い弓を敵が拾い上げ、嘲笑するのが悔しいから拾った」と答え、老臣たちが感心する場面である。この場面で生徒は、義経が命よりも源氏の大將としての誇りを大事にしていることを読み取り、何を大事にするかは人により異なることに気づき、これを「価値観」ということを知った。その後、生徒の話し合いの中に「価値観」という言葉が使われるようになり、生徒は使用語彙として「価値観」を習得した。

・作品への興味・関心

本単元を含む学習の振り返りを12月に実施した。「興味・関心が広がるきっかけになった」と回答する生徒が多く、その理由として「平家物語」への興味の高まりを挙げる生徒が多かった。「図書室で読んでみたいと思った」という生徒の声にこたえて、「平家物語」に関連する書籍を集め、教室前に特設コーナーを設置した。

・教科横断的な学習

12月に実施した学習の振り返りで「歴史と国語がコラボしたみたいで面白かった」と振り返る生徒がいた。時代背景や歴史的事実を確認しながら作品を読み進めたことで、教科横断的な学習につながった。また、3月に予定している京都への修学旅行の事前学習で「平家物語」に所縁のある名所を調べている生徒も多くいた。

・「討論」という学習活動の定着

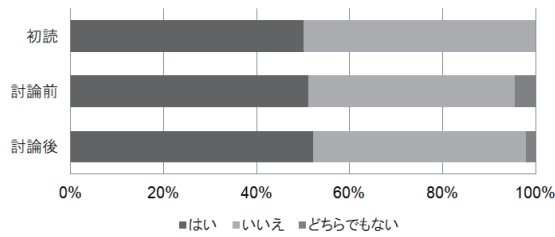
本単元に先立ち、討論の進め方を周知することをねらいとして学活で討論を行った。その結果、本単元で討論を行う際に進め方で混乱するようなことはなかった。本単元は、「討論」という学習活動を生徒に定着させるきっかけとなった。国語科に限らず、学活や総合的な学習の時間などに討論を取り入れることで、さらに学びを深めることができると期待する。

15. 学びの軌跡
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

・「非情か」という問いに対する回答の変化

平家の男が射倒された場面において、「与一・義経・源氏は非情だと思うか」という問いに対し、初読(第2時)・討論前(第7時)・討論後(第8時)にGoogleフォームで生徒は回答した。討論のテーマにした「義経は非情だと思うか」に対する回答結果に注目してみると、「はい(非情だと思う)」と「いいえ」の割合が常にほぼ同じであることが分かる。【グラフ①】

あなたは義経は「情けなし」だと思いませんか？



【グラフ①】問いに対する割合の変化

しかし、生徒の回答の変化を調べると「いいえ」から「はい」に変化した生徒が 13 人、「はい」から「いいえ」に変化した生徒が 11 人おり、割合は変化しないものの内訳は大きく異なることが分かった。生徒の考えの変化を【表①】に示す。

● = 「はい (義経は非情だと思う)」 ▲ = 「いいえ」

	● 殺す意味がない。→▲ 煽られて殺す命令をしたのなら納得できるから。 →● 腹が立ったからといって人を殺すのは非情だと思う。
生徒 B	● 与一のことをすごいと思って舞っている男を殺すように指示したのはひどいと思うから。 →▲ 舞った男が煽っているように義経には見えたかもしれないし、平家を滅ぼせという兄からの命令もあったから。
生徒 C	● 褒めている人を撃つと命令したから。 →▲ 義経は仲間思いで、弓を落とした時も敵になめられて攻められないようにとしっかり一つ一つの事を考えて行動しているから。
	● 舞う男を殺す必要はないと考えたから。 →▲ 源氏を守らないといけないという責任感もあったと思うから。
生徒 E	● 褒めてくれているのに殺したから。 →▲ 戦の中で人を殺すのは当たり前と言ってもいいから。
	● 舞う男をわざわざ殺す必要はないと思ったから。 →▲ 平家側からの挑戦を受けただけで、義経に限らず、もし与一が扇を射落とす事ができていなかったとしたら、平家側が源氏側の人間を射殺したかもしれないと思ったから。
生徒 G	▲ 自分の命が狙われてたかも知れないから殺しても仕方がなかったと思う。 →● 仕方がないとはいえ、人を殺すのは非情だと思ったから。
	▲ 指示を出しただけだから。→● たくさんの命令を出すだけで、自分ではやらないから。
	▲ 戦の最中だから仕方がないと思う。 →● 戦いの場ではあるけど、与一にプレッシャーをかけて射殺させたから。
生徒 J	▲ 命令はしたものの、ここは勝負の場だし平家から勝負をかけてきたから悪くはない。 →● ただ舞を舞ったただけかもしれない男のことを射殺したから。

【表①】問いに対する考えの変化の一例

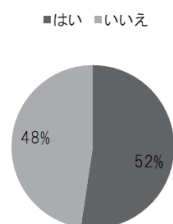
・考えに変化をもたらした要因

生徒 A・B の考えの変化には、第 5 時に行った中院本との比較が影響していることがわかる。中院本では、平家の男が舞った場面を与一の腕前を称賛するのではなく、水を差す行為として描かれており、教科書の本文から受ける印象との違いに驚く様子を見せる生徒が多かった。生徒 C・D は「弓流し」が影響している。いずれも教科書本文というひとつの情報だけでなく、新たな情報を追加したことで生じた変化である。

生徒 E・F は、当時の価値観を基準に考えようとしている。一方、生徒 G～J は現代の価値観で捉え直している。「戦だから敵を討つのは当然」という固定化された考えが、グループで話し合う中で「戦だから当然と決めつけていいのか」と変化していく様子が見られた。

第 9 時に討論の振り返りを行った際、8 割以上 (42 人) の生徒が、初読から何らかの考えの変化があったと回答していた。この変化には、考えが強まったという変化も含んでいる。そのうち、考えが変化するきっかけが討論だったと回答した生徒はおよそ半数だった。【グラフ②】

討論をきっかけに考えが変化しましたか？



【グラフ②】討論の影響

本単元は、討論を単元に取り入れることで「いろいろなものの見方や考え方があった」という理解にとどまっていた活動を、「話し合うことで自分の考えの変化や考えが広がったり深まったりした」という実感が得られる活動を目指している。第8時の討論で考えが変化したと回答した生徒は半数であったが、残りの半数も討論に向けてグループで意見交換をしながら読みを深めていく過程で考えが変化したと感じており、目指していた「話し合うことで自分の考えが変化したという実感が得られる活動」に近づけることができた。

・討論を通して学んだこと

第9時に行った討論の振り返りで、討論を通して学んだことや気づいたことをグループで話し合った。**【表②】**

討論の意義（よい点）	討論で大切なこと
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい見方や視点が発見できる。 ・他の人の意見を聞くことができ、別の視点から見るができる。 ・両方の視点から考えることができる。 ・意見を共有することができる。 ・考えが深まる。 ・自分の考えを発言できる。 ・自分の意見を見直せる。 ・納得して終えることができる。 ・他の人の考えを聞くことで、考えに変化が起きる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見が分かるように相手に伝えること。 ・声を大きくすること。 ・たくさんの発言をすること。 ・相手の意見をよく聞くこと。 ・進行係。 ・お互いを尊重すること。 ・相手の意見を受け入れながら、自分の意見を言うこと。 ・自分の立場を明確にすること。 ・イラつかないこと。 ・真剣に話し合う雰囲気。 ・説得力のある根拠。

【表②】 討論を通して学んだことや気づいたこと

「新しい見方や視点の獲得」「意見の共有」という討論の意義は、想定していたものであり、期待していたものである。注目したのは「自分の考えを発言できる」という意見であり、これは討論という形式を用いることによる気づきである。形式に注目したことにより、討論で大切なこととして「進行係」という意見も出た。全員が等しく発言する機会をもつことの大切さに気づいたことは、「相手の意見をよく聞く」「お互いを尊重する」という意見にも表れている。

また、討論の意義として「自分の意見を見直せる」という意見が出たことにも注目した。これは、相手に伝えるために自分の意見を見直すことで生じる変化に気づいたものであり、相手から新たな気づきを得ることを討論の直接的な効果とするならば、自分の中から新たな気づきを引き出す討論の間接的な効果と言える。討論で大切なこととして多くの生徒が「わかりやすく相手に伝える」ことを挙げており、そのためには「根拠」が必要だという意見も多かった。討論の中で、意見に対する根拠を相手から求められて言葉に詰まる生徒の様子を多く見かけた。意見には根拠が必要であるという学習は重ねてきたが、経験として学んだことでより確かな気づきになったと生徒の振り返りから感じられる。

さらに、討論のよさとして「納得して終えることができる」という意見があったことも注目すべき点である。今回の討論はディベートの形式をとるが、各自が納得できる結論を引き出すことを目的として、勝敗の判定は行わなかった。「義経は非情か」という問いに対し、「正解」はない。しかし、討論で十分に検討することでそれぞれに「納得解」を得ることができたのは成果である。

・学習の記録

本単元は、毎時間の学習内容をA3の紙に記録し、一覧で振り返ることができるようにしてきた。まとめ方はPPT【資料①】学習内容の記録A3（イメージ）で生徒に示しているが、自由度が高いものである。

【図③】を見ると、生徒Kは「与一・義経・源氏は非情だと思うか」という問いに対し、自分の考えの変化を表でまとめている。また、考えを数値化して示しており、微妙な変化がわかる。

また、第5時の記録では「大事なもの」と小見出しをつけて、「弓流し」から読み取った老臣と義経の考えの違いを比較しており、価値観は人によって異なるという学びを大事なこととしてしっかり受け取っていることが伝わってくる。

さらに、「討論のよい所」には「自分の考えが相手に伝わった時の喜び」とあり、討論を通じて仲間と対話することの楽しさを感じられたことがうかがえる。

【図④】の生徒Lは、討論を通して考えが変化すると読後感想で振り返っている。また、「非情だと思ふか」という問いに対する考えの変化だけでなく、価値観に対する考えの変化も表で示している。そこから、生徒Lが「弓流し」の場面から、義経の大事なものは「源氏軍の命」と読み取っていたが、討論後に「勝敗」が加わったこ

キャッチコピー
固定観念を一度捨てて新たな考え
を作る立場や考えか...
そんな平家物語を読んでおれ。

討論について
討論のよい所
自分の意見が出る所
自分の考えが相手と衝突する
討論の入り口は
大きき下で表す

特徴
鎌倉時代成立した軍記物語
信濃前田氏という義経の伝説
平家物語は鎌倉時代成立した軍記物語
信濃前田氏という義経の伝説
平家物語は鎌倉時代成立した軍記物語
信濃前田氏という義経の伝説

時代	内容	作者	時代	内容	作者
鎌倉時代	源氏物語	菅原素行	鎌倉時代	源氏物語	菅原素行
鎌倉時代	平家物語	不明	鎌倉時代	平家物語	不明
鎌倉時代	源氏物語	菅原素行	鎌倉時代	源氏物語	菅原素行

平家物語

後話
源氏物語の物語
源氏物語の物語
源氏物語の物語

前話
源氏物語の物語
源氏物語の物語
源氏物語の物語

源氏
源氏物語の物語
源氏物語の物語
源氏物語の物語

平家
平家物語の物語
平家物語の物語
平家物語の物語

価値観の変化

【図③】学習の記録（生徒K）

源氏	義経	手一
源氏軍の立場	義経の立場	手一の立場
源氏軍の命令	義経の命令	手一の命令
源氏軍の命	義経の命	手一の命

2/18 PM 6:00 具

初読感想

私は平家物語を読んだ。平家の男を射倒した手は情けないとは思いますが、なせな手一は源義経の命令で男を射たので義経の命令は絶対だと思ってる。手一の行動は本人の意志ではないと思ってる。

表現技法
・対句：似た言い回し
・擬声語：声を表す言葉
・擬音語：言葉を強張

10/24

平家物語は鎌倉時代に約50年にもわたる平家物語の歴史があり、また歴史ある軍記物語。その前編には「源氏物語」という歴史がある。源氏物語は「源氏物語」という歴史がある。源氏物語は「源氏物語」という歴史がある。

平家物語

後話
源氏物語の物語
源氏物語の物語
源氏物語の物語

前話
源氏物語の物語
源氏物語の物語
源氏物語の物語

源氏
源氏物語の物語
源氏物語の物語
源氏物語の物語

平家
平家物語の物語
平家物語の物語
平家物語の物語

価値観の変化

【図④】学習の記録（生徒L）

とが分かる。討論を通して、当時の価値観という視点に気づかされたことが伝わってくる。

16. 授業者による 自由記述	<p>能楽師・安田登氏は「平家物語」を時代の大きな変化を俯瞰的に眺めることができる作品であるとし、「『平家物語』を読むことによって、これからやって来る次の時代を見据えることができるかもしれない。」と解説で述べている。この言葉が、「平家物語」を国際理解教育の視点で見るときっかけになった。これを実践につなげることは私にとって大きな挑戦だったが、指導してくださった先生方の助言により実現することができた。</p> <p>国語科による国際理解教育の授業は、グローバルな課題を扱った説明的文章で行われることが多かった。しかし、「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、対話とコミュニケーション力を育てる。」という国際理解教育の視点に立てば、古典を含む文学的文章で行うことも可能であると本実践を通して感じた。</p> <p>国際理解教育において、国語教育の充実が求められている。今後は教材の中に国際理解教育の視点を探すのではなく、教材や学習活動を国際理解教育の視点で見直し、授業改善に活かしていきたい。</p>
--------------------	--

参考資料：

・ “使ってみよう！ 言語活動の学習の手引きとワークシート” . 佐賀県教育センター. 2010-03, https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h21/01shou-koku/gengokatsudou.htm,

(参照 2023-08-17)

・ 今井正之助.” 「扇の的」考—「とし五十ばかりなる男」の射殺をめぐる—” .

https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihonbungaku/63/5/63_54/_pdf, (参照 2023-08-17)

・ 古閑晶子. 個々の言葉による見方・考え方・表し方が働く深い学びのデザイン. 上越国語教育連絡協議会夏季研修会資料. 2023

・ 安田登. 集中講義 平家物語. NHK出版. 2022

【資料1】学習内容の記録A3(イメージ)

第九時 与一・義経・源氏
是非情か？
【義経】
【源氏】
【与一】
初演観後感

平家物語
○組
○○○

第九時 初演感想
と与一が義経、源氏は非情だ。と、義経は源氏を射る自分の考え、

第一時 作り上げて
成立
内容
特徴

第二時 表現技法
・対句
・擬音語

第三時 場面構成・あらすじ
前後二場面構成・あらすじ

キャッチコピー(作品のメッセージ)

源氏(陸)

平家(沖)

【資料2】人物相関図(イメージ)

源氏(陸)

源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛

源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛

平家(沖)

源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛

源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛

源氏方の人々のもの見方・考え方
常に戦勝願望 非情

平家方の人々のもの見方・考え方
鹿角を楽しむ優雅さ

【資料3】全文プリント(イメージ)

立派な武将の首をとるチャンスを選ばず... 義経は源氏を射る... 与一は源氏を射る... 伊勢三郎義盛は源氏を射る...

源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る... 与一は源氏を射る... 伊勢三郎義盛は源氏を射る...

【資料4】KJ法(イメージ)

※濃い付箋は教科書では省略されている部分や中院本から読み取ってほしい内容

その他のエピソード	(後話) 男を射倒す	(クライマックス) 男を射落とす	(前話・展開) 与一が男を射る	場面
今頃は遅いなく、中差を取っている	源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛	源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る...	源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る...	与一
立派な武将の首をとるチャンスを選ばず	源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛	源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る...	源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る...	義経
源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛	源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛	源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る...	源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る...	源氏方
源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛	源氏(陸) 源氏(沖) 義経 与一 伊勢三郎義盛	源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る...	源氏の強さを見せつけてやったぞ！ 義経は源氏を射る...	平家方

【資料5】覚一本と中院本の比較

覚一本(教科書)
あまりの面白さに、感にたたまるにやとおほしく、舟のうちよりと五十ばかりなる男の、黒革威の鎧着て白柄の長刀もたるが、扇たてたりける処にうらへあゆませ寄ッて、伊勢三郎義盛、与一がうらへあゆませ寄ッて、「御定ぞ仕れ」といひければ、

中院本
是をかんずるとおほしく、舟の内より大の男の、ふしなはめのよろひきたるが、しらえの大長刀のさやほつして、あふぎのざしきし、いで、おれだれてぞまふたりける。いせの三郎、与一がうらへあゆませ寄ッて、「御ちやうたであるぞ。にくいやつと二のまひかな。つかまつれ」といひければ、

二の舞
...滑稽にまねる

【資料6】ワークシート(イメージ)

源氏方	義経	与一	賛成(非情だ)
【対話】 義経は源氏(陸)と源氏(沖)の相対的な関係が、源氏(陸)の強さを認めている。源氏(沖)は源氏(陸)の強さを認めていない。源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めていない。	【対話】 源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めている。源氏(沖)は源氏(陸)の強さを認めていない。源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めていない。	【対話】 源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めている。源氏(沖)は源氏(陸)の強さを認めていない。源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めていない。	【対話】 源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めている。源氏(沖)は源氏(陸)の強さを認めていない。源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めていない。
【対話】 源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めている。源氏(沖)は源氏(陸)の強さを認めていない。源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めていない。	【対話】 源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めている。源氏(沖)は源氏(陸)の強さを認めていない。源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めていない。	【対話】 源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めている。源氏(沖)は源氏(陸)の強さを認めていない。源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めていない。	【対話】 源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めている。源氏(沖)は源氏(陸)の強さを認めていない。源氏(陸)は源氏(沖)の強さを認めていない。

討論の進め方

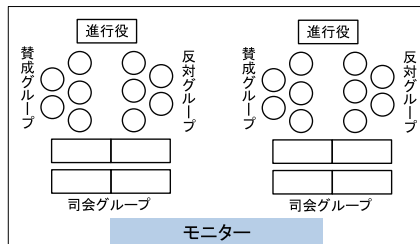


本時のねら

人の立場や考えを尊重しながら、**テーマ**に対し、多角的に検討する。

「義経／与一は非情か？」

会場準備



※□は机、○はイスです。

事前確認 討論の流れ

ワークシート②

閉会	一分
司会まとめ	四分（一分×四人）
結論	一分
〔賛成側〕	一分
〔反対側〕	一分
〔賛成側〕	四分
〔反対側〕	四分
反論	四分
〔賛成側〕	四分
〔反対側〕	四分
質疑応答	四分
作戦タイム①	三分
〔賛成側〕	三分（一分×三人）
〔反対側〕	三分（一分×三人）
立論	三分（一分×三人）
テーマと流れの確認	三分
開会	一分

事前確認 役割分担

ワークシート②

役割分担	人数が足りない場合は、複数名割り当てられているところから減らす。
〔司会グループ〕	進行役（計時） 一人 討論の司会進行をし、発言時間の計測を行う。
司会まとめ	四人 討論の最後に中立な立場でまとめる。
〔賛成・反対グループ〕	立論 三人 討論の初めに自分たちの立場から考えを発表する。
反論	一人 相手の考えに対して反論する。
結論	一人 相手の考えもふまえて、自分たちの考えをまとめる。

それでは、討論を始めます。
会場に移動してください。

- 持ち物
- ・ワークシート類
 - ・筆記用具



0

最終確認

- ・グループ内で役割分担しましょう。
- ・お互いの **ワークシート①** を持ち寄って、発表内容を決めましょう。

5分

- 役割に応じてワークシートを受けとる
- ワークシート③
 - ワークシート④
 - ワークシート⑤

・準備ができれば、座席に座ります。

1 開会

- ・テーマと流れを確認しましょう。

1分

これから討論を始めます。
司会グループは○班、
賛成グループは□班、
反対グループは△班です。
よろしくお願いします。



2 賛成側の立論

- ・初めに自分たちの立場から考えを発表しましょう。

1分 × 3人

まずは、賛成側からの立論です。時間は1人1分です。お願いします。



2₋₂

反対側の立論

・初めに自分たちの立場から考えを発表しましょう。

1分
×
3人

次は、反対側からの立論です。時間は1人1分です。お願いします。



作戦タイム①



3分

・相手の意見に対し、どんな質問をするか検討しましょう。
・誰が誰に対して質問するか、質問の順番も決めましょう。

3₋₁

賛成側の質疑応答

まず、賛成側からの質問です。時間は4分です。賛成側の皆さん質問してください。
(質問後) 反対側の皆さん、質問に答えてください。

4分



3₋₂

反対側の質疑応答

次は、反対側からの質問です。時間は4分です。反対側の皆さん質問してください。
(質問後) 賛成側の皆さん、質問に答えてください。

4分



4₋₁

反対側の反論

・相手の考えに対して反論しましょう。

1分

まずは、反対側の反論です。時間は1分です。お願いします。



4₋₂

賛成側の反論

・相手の考えに対して反論しましょう。

1分

次は、賛成側の反論です。時間は1分です。お願いします。



作戦タイム②



3分

・相手の意見に共感する部分があったか考えましょう。
・自分たちの立場を支える新たな見方や考え方はないか考えましょう。

5₋₁

反対側の結論

・相手の考えもふまえて、自分たちの考えをまとめましょう。

1分

まずは、反対側からの結論です。時間は1分です。お願いします。



5 賛成側の結論

・相手の考えもふまえて、自分たちの考えをまとめましょう。

1分

次は、賛成側からの結論です。時間は1分です。お願いします。



6 司会まとめ

・最後に中立な立場でまとめましょう。

1分
×
4人



7 閉会

・進行役は感想を述べましょう。

1分

今回の討論は……でした。これで終わります。ありがとうございました。



源氏方	義経	与一	
			賛成(非情だ)
			反対(非情ではない)

討論の進め方

- ・閉会 1分
- ・司会まとめ 四分(一分×四)
- ・結論 一分
- ・賛成側の作戦タイム① 三分
- ・賛成側の反論 四分
- ・賛成側の質疑応答 四分
- ・賛成側の反論 四分
- ・反対側の作戦タイム② 三分
- ・反対側の反論 四分
- ・反対側の質疑応答 四分
- ・反対側の反論 四分

討論の進め方(五分)

- ・閉会 一分
- ・司会まとめ 四分(一分×四)
- ・結論 一分
- ・賛成側の作戦タイム① 三分
- ・賛成側の反論 四分
- ・賛成側の質疑応答 四分
- ・賛成側の反論 四分
- ・反対側の作戦タイム② 三分
- ・反対側の反論 四分
- ・反対側の質疑応答 四分
- ・反対側の反論 四分

進行役の手引き

進行役は、討論の進め方を司会し、時間を守るように努めます。進行役は、討論の進め方を司会し、時間を守るように努めます。

司会グループ

司会グループは、討論の進め方を司会し、時間を守るように努めます。司会グループは、討論の進め方を司会し、時間を守るように努めます。

進行役の手引き

進行役は、討論の進め方を司会し、時間を守るように努めます。進行役は、討論の進め方を司会し、時間を守るように努めます。

閉会	まとめ	結論	反論	質疑応答	作戦タイム①	作戦タイム②	閉会

司会まとめの手引き	結論	反論	質疑応答	作戦タイム①	作戦タイム②
司会まとめの手引き	結論	反論	質疑応答	作戦タイム①	作戦タイム②

結論	反論	質疑応答	作戦タイム①	作戦タイム②
結論	反論	質疑応答	作戦タイム①	作戦タイム②